

# 日高高等学校

実施日時	令和2年10月22日(木)、10月29日(木)
参加者	生徒804名(附属中を含む)、教職員60名(附属中を含む)、地域住民等573名 計1437名
実施内容	避難訓練、HUG、消火訓練、煙体験、搬送法・応急手当、心肺蘇生法

## ねらい

- 1 大地震・津波の発生時、地域と連携を図り、安全かつ迅速に避難ができるように、避難経路の把握、避難方法の手順の確認を行い、実際の緊急避難に対応できる行動力を身に付ける。
- 2 避難場所である本校に大勢の避難者が来校した際、本校の生徒及び職員・避難者が互いに協力し、安全かつ迅速に避難行動がとれる実践力を身に付ける。
- 3 中高生における防災学習・スクールを通して、自助・共助に関する理解を深め、将来の避難率先者の育成を図る。

## 主なプログラム

### 1 防災学習

各HRにて防災対策や災害対応について考え、本校が地震によって受ける影響などを学ぶ。また、本校に備わっている担架やAED、消火器の数など、いざとなったときに役立つ情報を知る。さらに、自宅からの避難所や避難場所について確認させ、避難の際に何を持ち出すのか考えさせる。

### 2 避難訓練

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、密をさけ本校生徒はグラウンドへ、幼稚園・保育園、小学校、地域住民は校舎3階以上へ避難訓練を行った。

### 3 防災スクール

高校1年生と中学1年生は、地震・津波に関するDVDを鑑賞し、煙体験を行った。高2は2クラス合同で、消防署職員指導による搬送法・応急手当、消火訓練、御坊市役所職員指導による「地域における防災への取り組み」についての講演、本校職員指導によるパーティションづくりを体験した。中学2年生は心肺蘇生法の講習、高校3年生と中学3年生は教室でHUG訓練を行った。中学生は学年ごとの取り組み後、市役所職員による講演を聞いた。また、高校2年生の防災委員は避難訓練に来られた地域住民とともにHUG訓練を行った。また、高校生のボランティア生徒たちは本校へ避難してくる幼稚園・保育園の園児たちの避難の帯同に参加した。

## 概要

### 1 防災学習

はじめに過去の災害を振り返り、多くの人が恐れている南海トラフ地震だけを警戒するのではなく、近年の大雨や台風でも多くの命が失われていることを伝えた。防災対策・災害対応を考えるうえで大切な3つのキーワード、「自助・共助・公助」について考えさせた。災害が起こったときは自助・共助がどれだけ大事なことなのか理解させた。



本校が南海トラフ地震によって受ける津波の影響について知り、津波三原則を覚えてもらうようにした。さらに、緊急時に必要となる AED や担架、消火器などの設置場所を知り、緊急時には積極的に使用するよう呼びかけた。最後に、自宅からの避難場所、避難所の把握をしているか、防災グッズはどんなものを準備しているかなど家庭で災害におけるのどれだけの備えをしているのか確認させた。

## 2 避難訓練

13時に震度7の地震発生がしたと想定し、3分間の地震訓練音の後、ライフジャケットを着用して各クラスより避難経路にそって避難を行った。避難指示の放送後より避難時間の計測を開始した。



今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本校生徒はグラウンドへの避難のみとし、幼稚園・保育園、小学校、地域住民は校舎3階以上の避難を行った。グラウンド集合時には各学年で点呼し、学年主任が管理職へ報告。管理職が集約完了時点で避難完了時間の計測を終了した。全校生徒に避難の際の注意点や本当に地震が起こった時には周囲の状況を見て、臨機応変な行動をとることを呼びかけた。大津波警報が発令がされた場合には、校舎3階以上の垂直避難することを説明した。



## 3 防災スクール

避難訓練終了後、防災スクールを実施した。

中学1年生は煙体験後、各クラスへ戻り津波に関するDVD鑑賞を行い、中学2年生は柔道場にて地元消防士の方々による心肺蘇生法の講習を受け、中学3年生は各HR教室でHUG訓練を行った。さらに、その後中学1～3年生合同で、市役所より地域における防災への取り組みについて講演を受けた。



高校1年生は教室にて津波に関するDVD鑑賞、煙体験、市役所より中学校と同様の講演を受けた。高校2年生はパーティション作りと地元消防士の方々の協力による消火訓練、応急手当と搬送法を実施した。高校3年生は各クラスへ戻り、HUG訓練を行った。また図書館では、高校2年生の防災委員と地域住民の方々とHUG訓練に取り組んだ。





園児の帯同をしたボランティア生徒は、園児に対し防災に関する紙芝居の読み聞かせと防災ダック、煙体験を行った。ひとつの園に対しては、総合学習の中で生徒たちが作成した、「防災カルタ」と「防災双六」を実施した。園児たちはゲーム感覚で防災について楽しく学んだ。



## 参加者感想文

### 避難訓練を振り返って

・思っていたより、ライフジャケットを着用して走るのは難しく、他人とぶつかったりして動きにくかった。訓練では最悪な状況を考えて行動したい。

・周りの人に合わせて行動したから教室を出るのが遅くなったので、次はもう少し自分の意思で行動したい。

・避難中、ふざけながら歩く人が見られたので、もっと意識を高めてほしいと思いました。

・自分も含めて、少し避難訓練に対する意識というものが欠けていたと思った。逃げの行動も迅速なものとはいえなかったし、私語があったのも反省すべき点だと思った。

・園帯同ボランティアをして、いつもなら、「自分の身は自分で守る」ことを第一に行動していましたが、今回は、自分の身を守り、その上で園の子どもたちの避難を助け、守るという点で、とても大変でした。園の先生方がしている行動や言葉を用いて、子どもたちの避難を助けることができました。

・ライフジャケットを久しぶりに着て、装着もスピードが求められるので、日頃から慣れておきたいと思いました。とにかく迅速に、真面目に、性格に、慌てず行動していきたいと感じました。

### ・防災スクールを体験して

～津波に関するDVDを鑑賞して～

・家族の絆の大きさも大切ですが、信頼性を高めることが被災者を1人でも多く救うキーワードになると思いました。

・家族で地震の話をするとき、いつも父と母は「1回家に帰ってくるから。」と言うけど、それがダメなことだとわかった。ダメなことは何回も聞いたことあるし、聞き飽きたって思うこともあるけど、それだけ大切なことなんだと思う。今日家に帰って家族にこの話をして、もう一度、自分たちの避難場所や行動を見直して、全員が助かるようにしたいと思った。

・大人の意識によって子どもたちに大きな影響が出るなんて考えたことがありませんでした。自分達も、高校生としてどう行動していくべきか、その一つ一つに未来がかかっているという事に気づかされました。

～実地訓練を体験して～

・煙体験では、自分の考えの甘さが痛いほどわかった。周りがまったく見えず、もしこれが本当の煙であったらと考えると怖かった。

・理想通りは不可能だと思うけど、そのときそのときで最善を尽くせるような人間になろうと思った。津波の残酷さを受け入れて、家族を信じて、自分1人でも避難できるようになろうと思った。

・いざという時に必要な事ばかりだったので、もし本当にこんな災害が起こったら、自分が積極的に動けるように意識していきたいと思いました。今後、家でもできるように家族に伝えて防災知識をもっともっと増やしていきたいと思いました。全然知らない人で困っていたり、怪我をしていたら、自分から声をかけて助けてあげられるようになりたいです。

・HUGをやってみて、避難者の事情によって配置も考えなければならぬので難しかった。また、運営チームのコミュニケーションも必須だと感じた。

～HUGの振り返りより～

・全員が希望する環境で生活することが難しい。

・実際の避難所でどのような事が行われているか、事前の情報収集が大切ではないか。

・運営を考えていく中で、意見の食い違いがあり、まとめるのが難しかった。

・人と人のつながりを見つけ、少しでも心労を減らせるのではないかと思った。だが実際には人間関係による問題が起こると考えると、まだまだ配慮が足りなかった。

・学校の授業でももっと防災に関する授業を取り入れ、もっと防災が身近にならなければいけないと思った。

## 成果と課題

### 【成果】

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大対策をしながらの実施であったため、消毒の準備や時間

の設定など、事前の準備が大変であった。訓練をすることで、いざ災害が起こった時は、一番に自分の命を守れるようにするのが軸になると思うので、その意識に多くの生徒たちが気づけて良かった。また、高校生として何ができるのか、自分が学んだことがどういった場面でいかせるのか、考える生徒が増えて良かった。実地訓練は生徒たちにとって、とても良い経験と勉強になった。

### 【課題】

生徒たちの振り返りに、「危機感を持っている人が少なすぎる」「話し声や笑い声が聞こえた」「地震の揺れが起こっているのに、頭を守ったりしていない」など、実際に災害の怖さを想定できない生徒がいたので、避難訓練の大切さや本当に災害が起こり避難となったときの意識をもっと持ってもらえるように、事前指導でも訓練の大切さを強調して伝えていきたい。

ライフジャケットを着るときに手間取る生徒がいたので、時間を作ってライフジャケットを着る練習をしていきたい。